



第168号  
令和5年2月27日  
能代市教育委員会  
学校教育課  
創刊  
昭和42年10月10日  
題字 元能代市長  
鎌田 宏

### 巻頭言



## あの坂を登れば

能代第一中学校長

佐藤 克

学力、学力と言わなくても学力向上が図られる学校、不登校の事後対応で奔走する前にそもそも不登校が発生しにくい学校。そういう学校でありたいものである。授業が楽しく、学校に来るのが楽しくれば自ずとそういう学校になるはずであり、そのための取組を「受容と共感」、「集団力」に求めた。

「受容と共感」。授業では自分の考えを全体の場合に出すことができなければ、学び合いも成立しない。そのためには温かい認め合い、発表したくなる雰囲気づくりが不可欠であり、全校、全教科で取り組んでいる（具体的手法については割愛）。学び合いや振り返りのさせ

方等、技術的な研究も大切だが、その前提となる雰囲気づくりも先生個人の取組に任せるのではなく、全校で研究し育てていきたい。

もう一つの「集団力」。年々、子ども個人の個人主義的傾向が強まっている感がある。学校でなければできない最大の教育は集団活動。みんなで目的を達成する楽しさを十分に味わわせたい。「集団力」を發揮できる行事を重点配置し、各行事のねらいを集団力向上に置いて実践し、振り返ることを続けている。「集団力」の意識の高まりは各行事を超えて学校生活の随所に表れ、生徒の笑顔につながる。「あの坂を登れば海が見える（杉みき子）」、光る目標を目指し取り組む過程こそ楽しい。最後まで顔を上げて歩を進めたい。

### スクールニュース

二ツ井を元気に  
地域創生プロジェクト「きみまちカンパニー」  
二ツ井中学校  
教頭 堀江 岳志

二年目の開催となった「きみ・パ・フェス」は地元のお店会や商工会、企業の協力のもと盛大に行われた。

本校では二ツ井を元気にしたいという生徒の思いから「きみまちカンパニー」を設立し、二ツ井小学校と連携して活動を展開している。児童生徒は五つの事業部に分かれて地域の農産物を活用した商品開発や観光PR、福祉体験活動に地域と協働して取り組んでいる。

当日の「きみ・パ・フェス」で児童生徒たちはこれまでの活動の成果を披露した。



店舗や発表会の宣伝、商品販売や活動紹介を行い、地域の魅力を伝えることがで

### 輝きの一場面



新発見！「ぼくらの鶴形」  
4年生 モリアオガエルの飼育観察  
令和4年6月10日 第五小学校

きた。活動を通じて、地域の人たちの温かさに触れるとともに、持続可能な二ツ井地区の創生を一緒に考える意識が高まったと感じている。

今でも、商店街に響いた子どもたちの声、地域の皆さんからの温かな励ましが心に残っている。



淳城南小学校  
教諭  
嵯峨裕美子

## これが私の指導法 ～知的財産の継承～

採用一年目、褒められた子どもが相好を崩したあの場面が忘れられない。本校では、算数科を中心に学び合いを取り入れた授業を実践している。考え

を出し合い、比較・検討し、自分たちでまとめをする様子を見守る。その後、補足や揺さぶりの発問を行い、最終的なまとめを導き出す。学び合いのよかったところを褒める。間違いをそれ以上に褒める。間違ったことで学びが広がり深まったことを大いに褒めて、価値付けをする。子どもたちの表情がふつと緩む。

国語で「想像力のスイッチを入れよう」という教材を学習した。情報を鵜呑みにせず、「事実かな想像かな。」「他の見方もない

かな。」などと受け取る側が努力することの必要性を説いている。学習を終えた子どもたちは、日々「想像力のスイッチ」を働かせて生活するようになった。自分の考えに「情報を受け取る時だけでなく発信する時も想像力のスイッチを働かせたい。」と書いた子どもが起り、書いた子どもはとてもいい表情を見せてくれた。

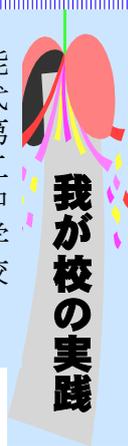
倍速でドラマを見たり、機器で読み取ると長文の翻訳が瞬時にできたり、世の中の速度は加速する

一方である。そんな時代にあっても想像力のスイッチを入れて相手の気持ちを慮ることができる人であってほしいと願う。

今年度は、新採用の先生と同年を組んだ。質問に答える度に、児童や保護者の対応、授業の進め方、評価方法など、一つ一つを考え、学び直すよい機会となった。新型コロナウイルスによる制限も、今春大きく緩和される。子どもたちのとびきりの笑顔がたくさん引き出すことができる教師でありたい。

能代第二中学校

教諭 佐藤 昭人



## 「個や集団に応じた体験学習を設定し、主体的な課題解決学習を促す指導」を目指して

本校では、意図的に体験活動を設定し、生徒の課題意識を高めることによって、主体的な課題解決の力を身に付けさせることをねらいとして総合的な学習の時間の実践に取り組んでいる。今回は、本校の二年生が初めて「のしろいち」に参加した事例について紹介する。

### ①地域素材を活用した活動の展開

学習の冒頭では、のしろいち実行委員の方をお招きし、まちおこしの取組について紹介していただいた。活動後には、「能代のため

に何かをしたい。」「自分たちも能代を盛り上げたい。」などの感想が挙げられた。自分には何ができ、ふるさととどこのように関わっていけばよいか考えを深めるよい機会となった。

### ②表現活動の充実

実行委員会を組織し、企画の準備に取りかかった。話し合いでは、生徒一人一人の思いや考えを表現できるように学習シートを工夫したり、ICTを活用したりした。斬新なアイデアが出され、意欲の高まりも見られた。

### ③「のしろいち」当日の様子

空き店舗を活用した企画や本部ボランティアなどの活動に対し、極力指示を与えずに見守った。生徒たちは、幼児の目線に合わせて優しく話し掛けたり、高齢者を気遣ったりと、臨機応変に活動していた。働くことの大変さや喜び等を実感しながら、主体的に活動しようとする姿が多く見られた。



活動の中盤では、普段まちおこしをしている15名の方々に取材する活動も取り入れた。今後は、地域とどう関わっていくかといった視点を基に、地域学校協働活動推進員と豊かに連携しながら実践を積み重ねていきたい。

## 輝きの一場面



「音翔会」自衛隊とコラボした全校合唱  
令和4年10月30日 能代南中学校

## 編集後記

今月、学校からの要請により、いくつかの学校を訪問させていただきました。どの学校でも、「チーム学校」として全校体制でOJTを推進しており、若手・中堅教員がたいへんよく育っていると感じました。今後も、一人一人の資質・能力や学校の組織力の向上につながるよう、計画的かつ継続的な取組をお願いいたします。今年度も「教育のしろ」に、各校より玉稿をお寄せいただきました。心から感謝申し上げます。

(〇)